

新説“持ってるな”

ぽんちゃんじいちゃん

今回のお題は、最近プロスポーツ界などで使用される流行語らしい。“何を”という目的語がないのが特徴という。それでも良く理解できない。それならと、自分なりの“持ってるな”を書くことにした。新説、いや珍説の披露となるかもしれない。

先月末に、小学校の同級会に出席するため、帰省した。故郷訪問は最近では年1回位だ。実家があり、中高の同級生達が住む田舎町である。同級会は天童温泉開催だが、山形で途中下車し、駅前の高校先輩のお宅に立ち寄りご挨拶をして、僅かな品だが東京土産を届け、ご母堂の健在も確かめた。暮れに、銘酒“出羽桜雪漫漫”を戴いていた。

同級会は卒業生約250人中、60人も出席して盛り上がった。何十年振りの者もいた。その中で、Aさんが、小生の山里歩き本の出版を知ったらしく、読みたいから送ってくれという。帰京後送るとお礼が届いた。地元産米「艶姫」の外、イナゴ、棒鱈、カラカイなど子供の頃ご馳走であった田舎料理品である。東京では入手困難との配慮からの選品である。義理堅さや心づくしに感謝である。

二次会途中で実家へ帰る時、わざわざBさんが見送ってくれた。前回帰郷時に、幻の“十四代”を戴いた方だ。先日そのお返しを贈ったことへのお礼を丁寧に述べられた。高価な逸品の半額にも満たない品に、少し後ろめたさが残った。

同級会の翌日、急遽元部活メンバーC君を囲んで、彼の退職祝いを開いた。前日同級会の折、D君に開催意向を伝えると連絡の外、料理店まで予約してくれた。予定の5人が集まり、思い出話に花が咲いた。お開き後、E君が自宅へ寄れという。同じ同級生のE夫人が、土産に自家製なすの漬物と梅干しを持たせてくれた。

一泊二日の帰省であったが、多くの同級生達と交流できて、満たされた気分で帰宅した。これらは、“持ってるな”ではなくて、“持ててるな”かな・・・？。どちらでも、小生にとっては有り難いことである。次回帰郷の際には持参する土産数が増えることは間違いない。

友人との絆

土屋明日香

テレビで一時期よく耳にした言葉「(何か)持ってる」、周囲から言われた訳ではないですが、私も「持ってるな～」と恥ずかしながら思ったことがあります。何を持っているかということ、それは友人との絆です。

私は1年ほどフランスに留学していたことがあります。その時期に出会った友達とは今でも交流が続いています。そこではフランスだけでなく世界各国の人々と出会うことができました。

先日、アジアの歴史について勉強しているアメリカ人の友人と、そのパートナーのスウェーデン人の友人がリサーチのため来日するというので、東京にて再会しました。フランスで出会った私たちが使う言語はもちろんフランス語です。ただ、全員ともフランス語が母国語ではないので、フランス語でうまく説明できなくなったときは英語、スウェーデン語、日本語等を使って互いに通訳し合っていたら最終的に何語を喋っているか分からなくなり、皆で混乱して大笑いしていました。傍から見たら、「この人たちはどんなつながりで一緒にいるのだろう」と思われるグループだったと思います。東京で、スウェーデン人とアメリカ人と日本人がフランス語で話す、なんて不思議な状況でしたが、留学時代の雰囲気そのまま、とても楽しかったです。

他にも、ちょっとしたことですが、自分が疲れているときに偶然、遠く離れている友人から「元気？最近どうしてるの？」や、「今旅行でオーストリアにいるよ！」などメッセージをもらったりすると、とても元気になります。メールだけでなく、絵葉書・手紙も届き心が和みます。そんな時には何らかの縁や絆を感じ、「私って持ってるかも...」と思ってしまいます。直接会うことは中々ないけれど、世界各国から(もちろん日本の友人からも!)日々元気をもらっています。



【 持ってるな～↑ 】

いろいろ持ってる!?

引きずり男

そもそも有名スポーツ選手が使い出して有名になった言葉。果たして私のような人間が何を持ってるの？いろいろ考えたあげく、「引き」という結論？に至った。めちゃくちゃ強引だが。

その1 落とし物編

よく落とし物をする。携帯、定期券、スキーウェア…。携帯、定期券とも今のところ2勝1敗くらいである（3回なくしたら2回は戻ってきた、という意味）。スキーウェアは人から借りていたものだったので、かなり焦った。山手線に乗っていて、どうもそれを網棚に置いたまま降りたらしい。そこでジタバタせず、降りたホームのその場所で、来る電車来る電車、一步踏み入って網棚を見上げた。約1時間後、スキーウェアを乗せた電車がやってきた。セーフ。この時ほど、ぐるぐる回る電車のありがたみを感じたことはなかった（山手線には大崎の車庫に入る車両もあるので、その場合、この手は通用しません）。

その2 婚活編

私の時代には「婚活」という言葉は登場していなかった。どこでどうやって見つけるか。いつの時代も、大変な話だと思う。私の場合、それまで行ったこともない街「恵比寿」での合コンがきっかけだった。初めは大して気乗りしなかったのだが、「仕事忙しい」とか言っちゃって。でも、こういうのは行っとくべきだと思う。特に、多人数×多人数で、そのうち男性側の幹事と女性側の幹事とが知り合いなだけで、それ以外はお互いに誰が誰だかチンプンカンプン…な飲み会がgoodだと思う。

その3 弁理士試験編

「厳しくなった」「細かいことを聞かれる」「条文・青本に忠実に」弁理士試験の口述試験について、いろいろ言われている。確かにイヤらしい試験だと思う。かなりの範囲で準備していても不安が消えない。で、本番になると案の定、的が外れる。特実を受けて、タジタジ。意匠はなんとか盛り返した。商標…苦手意識。「それでは『登録異議の申立て』についてお聞きします」きたっ！創英の先輩を相手に練習させてもらったときの問題に似ていた。なんとか切り抜けた（本当に有難うございました）。

持ってるな～

アンティグア・バーブーダ

私は、鎌ヶ谷市在住です。1月まで斎藤選手で盛り上がっていたあの鎌ヶ谷です。娘（幼稚園）の同級生のお母さんは、2軍の鎌ヶ谷グランドまで足を運び、やはりもってるな～って感じたらしいです。「随分と暇だねえ！！」なんて嫌味を言ってたお父さん連中（私含め）も、結局は、うらやましげに「すぐに北海道に行っちゃうのねえ。」なんて愚痴をこぼしていたのでした。その通りでしたけどね。

ところで、私の持っているもの？？？て考えると、ふと、昔のことを思い出しました。

そう、あれは小学1年生の最初のテスト。忘れもしませんが、隣の女の子の答えを見ちまいました。いわゆるカンニングというやつです。そのときは、何気なく、でも後で妙にきまづく、おまけに、その女の子が初恋の人になったもんで、そりゃあもう後悔しました。そのことで引け目を感じてしまい、その後は、一切しゃべることもできず、カンニングはバチがあたるということを当時の私は痛感したものです。

それ以外にも、ご先祖様がいつも監視しているとか、間が悪いとか、悪さをすると、必ず最初に見つかってしまい、とにかく悪さはダメダメダメということ強く戒められていた気がします。そう考えると、人生をまっとうに生きてこられたのも、見えないものを持たせていただいていたおかげかなあと、勝手に思ったりもします。

一方で、すさまじくやんちゃだった私は怪我也多く、走ってきた車に自転車で突っ込んだり、自転車に乗ったままドブ川に飛び込んだり、そりゃあもう大変でした。でも、車にぶつかったときは、側面だったので軽い打ち身ですみ（後でドライバにこっぴどくやられました）、ドブ川のときは、たまたま浅くてドザエモンを免れるなど、今考えると相当しびれるところで助けられていた気がします。さらに、縫うほどの怪我を3度したことがあるのですが、最初が右目のすぐ上、次にアキレス腱のすぐ下、さらに右手首の動脈の脇というように大怪我の手前、ぎりぎりのところでのいであり、なんとまあ、色々と持たせていただいていたものだなあと改めて感謝する次第です。

そんな私も、今では二児の父。下の娘も今年小学1年生。持たせていただいたものを子供たちに引き継ぐべく、たまには墓参りにでも行くかなあと思う今日この頃でした。